

総

務常任委員会

「防災かまどベンチづくり」について

視察日 平成27年5月26日(火)～28日(木)
視察先 滋賀県大津市(県庁)・長浜市・日野町
出席委員6名

滋賀県庁において、「防災かまどベンチづくり」について視察研修を行いました。かまどベンチとは、れんが囲いの土台の上に座板を乗せたもので、通常時はベンチとして使用しますが、災害時には「かまど」として活用するものです。「防災かまどベンチづくり」が話題になったのは、県立彦根工業高等学校都市工学科の生徒が防災の展示会において展示されていた「防災かまどベンチ」を見て、地域活性化に役立つのではないかと思いついたそうです。

作成に当たるまでの学校・地域との連携が単なるもの

委員長 風野和視 副委員長 大山和則
委員 林 悦子・高田重雄・相田一良・増田 豊

づくりにとどまらず、多様な効果が発揮されることが評価され、内閣府主催の防災教育チャレンジプランにおいて「防災教育大賞」を受賞し、「全国モデル」になったということでした。「防災かまどベンチづくり」は、単に災害時に役立つ設備をつくるというのではなく、その製作の過程を通して人々のつながりを強め、災害時を想像させる機会をつくり、訓練の場となるなどさまざまな効果が期待され、まちづくりにつながる取り組みであるといわれています。

滋賀県では、「防災かまどベンチづくり」を「共助」の担い手となる住民・自治会・自主防災組織等地域の方々が減災力・防災力が高められることから「自治振興交付金事業」の中に取り入れ、県内自治体に推進しているとのことでした。

また、滋賀県長浜市では「黒壁とNPOのまちづくり」、日野町では「歴史的建造物を活かしたまちづくり」の視察研修を行いました。



滋賀県庁

文

教厚生 常任委員会

施設一体型の小中一貫教育による適正配置について

視察日 平成27年5月20日(水)～22日(金)
視察先 富山県富山市・氷見市、石川県金沢市
出席委員4名 欠席委員2名

富山市の児童数の推移を見ますと、昭和57年には3万1,299人、平成26年には1万6,081人と約半分にまで減少し、市内の小学校65校のうち、約半数は1学年1学級の学校や複式学級を編成していました。今回視察した芝園小学校・芝園中学校では、平成14年8月に統合問題協議会が設立され、平成16年3月に統合の合意がされました。その内容は、「芝園中学校区内の小学校4校を統合する。通学区域は統合する4小学校の通学区域を合わせた区域とする。統合の場所は芝園中学校敷地内とし、統合校の建設に当たっては、芝園中学校の改築もあわせて行う」というもので

委員長 萩原剛志 副委員長 谷田部由則
委員 潮田新正・小林正紀・小高友徳・菊池伸浩

した。4小学校は3年をかけて段階的に統合され、平成20年4月に芝園小学校として新設され、芝園中学校との施設一体型の小中一貫教育を現在まで行っています。

成果としては、「児童生徒が合同で活動に取り組むことで、教員と児童生徒の間にも自然と交流が生まれ、小学校から中学校への滑らかな接続につながっている。中学校教員による小学校への専科授業や合同研修会等を通して、9年間を見通した一貫性のある指導が進められる。教員間の情報交換ができ、より多くの教員の目で児童生徒を見ていく環境が整うことで、成長に応じた効果的な生徒指導が得られる」とのことでした。

また、富山県氷見市では「公設民営化による病院運営」、石川県金沢市では、「歴史的文化遺産」について視察研修を行いました。



富山市立芝園小学校

委員会報告

桜川市議会議員は、全議員がいずれかの常任委員会に所属し、それぞれ掲げたテーマについて審査しています。このページでは、その審査内容や各委員会の活動状況を報告します。

建

設経済 常任委員会

今号は建設経済 常任委員会に注目



鈴木裕一 委員長



市村 香 副委員長



増田 昇 委員



飯島重男 委員



仁平 実 委員



榎戸和也 委員

「黒島地区伝統的建造物群保存地区」の指定までの経緯・維持管理について

視察日 平成27年5月27日(水)～29日(金)
視察先 石川県輪島市・金沢市
出席委員5名 欠席委員1名

黒島地区では、平成19年3月25日の能登半島地震により甚大な被害を受け、地震直後より地元有志による町並み保存の動きから、各種住宅債権支援事業を活用し、町並み景観に配慮した復興が進められました。同年7月には「震災復興計画」を策定し、復興方針として、町並みの再生と継承が位置づけられ、「伝統的建造物群保存地区」の指定を目指すこととしました。

同年8月には「まちづくり協議会」を発足し、2カ年をかけて調査、平成20年6月に「伝統的建造物群保存地区条例」を制定。翌年1月に保存地区を指定し、「保存計画」を策定。翌年6月30日に文化庁より「重要伝統的保存地区」の選定を受けました。黒島地区は、面積20.5ヘクタール、種別

は船主集落であり、伝統的建造物149件、工作物101件、環境物件21件が存在しており、保存修理事業は、平成21年～27年度までで59件実施し、ほぼ完了していました。黒島地区は、高齢化率が73%と単身高齢者が増加しており、特に空き家問題・火災等の防災対策が重要課題でした。

また、石川県金沢市では「伝統的建造物群保存地区の4地区の歩み」についてと「寺町台地区の現状」について視察研修を行いました。



輪島市黒島地区角海家